

第5回小金井市市歌選定委員会

日 時 平成30年10月23日（火）午後7時00分～午後8時21分

場 所 前原暫定集会施設C会議室

出席委員 8人

委員長 植 田 克 己 委員

副委員長 伊 藤 繁 委員

委 員 有 井 道 子 委員

委 員 丹 羽 早 紀 委員

委 員 高 橋 浩 二 委員

委 員 井 上 むつみ 委員

委 員 越 康 寿 委員

委 員 水 本 孝 子 委員

欠席委員 2人

委 員 瀧 彰 宏 委員

委 員 小 嶋 算 委員

傍聴者 0人

事務局職員

企画財政部長 天 野 建 司

企画政策課長 梅 原 啓太郎

企画政策課主任 東 條 俊 介

企画政策課主事 齋 藤 彬 子

（午後7時00分開会）

◎植田委員長 大変お待たせいたしました。ただいまから第5回小金井市市歌選定委員会を開催いたします。改めまして、本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

瀧先生は今日はお休みということになっています。

それでは、会議に先立ちまして、配付資料の確認を事務局からお願いいたします。

◎企画政策課長 配付資料の確認をさせていただきます。今回は当日配付させていただいております。まず次第でございます。それから資料1、音源の演奏者等について。資料2、今後

の活用等について、でございます。不足しているものがございましたら、お申し出いただきたいと思ひます。よろしいでしょうか。

◎植田委員長 それでは、次第に沿って進めさせていただきたいと思ひます。

まずは先立ちまして、私はあいにく欠席をしなければいけなかったのですが、10月7日に行われました市制施行60周年記念式においてお披露目をした映像があると伺っております。事務局から説明をお願いいたします。

◎企画政策課長 小金井市歌及び小金井市民愛唱歌につきましては、10月1日に制定をし、告示をさせていただきました。また、10月7日に小金井市市制施行60周年記念式典においてお披露目をさせていただきました。当日は、小金井市合唱連盟の皆様により市歌及び愛唱歌の合唱を御披露いただきました。まことにありがとうございます。

本日は、当日の記録用の映像を用意しております。あくまでも記録用でございますので、家庭用のビデオで撮影してございまして、あまり音質や映像についてはよいものではないかもしれませんが、御覧いただければと思ひます。

(映像視聴)

◎植田委員長 どうもありがとうございました。

当日歌っていただいた方々から、ぜひ御感想を。お聞きの方々からも御感想を伺いたいところなのですが、いかがでしょうか。

◎伊藤委員 ステージで歌うなんていうことは本当に、初めてではないと思ひますが、本当に久しぶりで、いい経験をさせていただいたと思ひます。それから、とてもメロディーがメロディックで、もう1つの愛唱歌のほうもとてもやさしい曲だったので、もう、あの週、それから先週の頭ぐらゐまで、頭の中をグルグルと。ただ、先週はちょっと演奏の機会があったものですから、忘れようとしていたのですが、とても、事あるごとに頭の中で鳴ってございまして、とてもいい曲だなと思ひてございまして、いい機会をくださいませありがとうございます。

◎有井委員 最初の最初から全部参加させていただいて、詞も大切に、小金井の情景を頭に浮かべて歌う、その言葉を表現するには、抑揚というんですかね、そういう、深いところまですごく今回考えて、どうやったら伝わるのかなと。昼間と夕方の違い。よく、声優さんが七色の声を出すという、そんなんじゃないのですが、気持ちはそういう感じで表現するというのを、すごく今回、勉強になりました。

◎植田委員長 じゃあ順番に、高橋先生。

◎高橋委員 私は練習4回中、実は1回、残念ながら休みをもらったのですが、そのときにちょうど林望先生が来られる日として、その日に限って行けなかったということなのですが、本番に向けて、その前の一、二週間前ぐらゐから、できれば市歌のほうは暗譜したいと思ひて、歌詞を何回も読んだりして、なかなか覚えられないなというのが最初で、そのうち、やはりこの言葉しかないなということがだんだんとわかってきたり、ここはこういう情景だな、昔のまちだなと、いろいろな情景が、昔から今にかけてというのが歌に込められていて、ああい

い歌だなど。だんだん本番に向けて、歌がしみ込んでくるというか。そうすると、メロディーと良い歌詞と良い、その辺がずっと、練習じゃないときもやはり頭の中に残る感じがしました。そういう意味では、じわじわと皆さんの、市民の中に歌がしみ込んでいくのではなかろうかということが、今後期待が持てるように感じました。

◎植田委員長 ありがとうございます。

丹羽先生、いかがですか。

◎丹羽委員 私は土日も仕事が入ってくることもあって、残念ながら1回しか練習に出られなかったのですが、ちょうどそのときに林先生がいらっしゃるという、逆パターンだったんです。すごく貴重で、いらっしゃることを知らずに行ったので、あ、いつもいらっしゃっているのかなという感じでいかせていただいたのですが。

歌詞とかを見せていただいて、すてきな曲だなどは思っているのですが、意味をそこまで知らないで、何となくで歌っているのと、林先生が情景とかを言っていただくと、やっぱり違った、気持ちに乗ったりして、やっぱり作者の方の意思とかを理解しながら歌うと、また歌って違うなというふうに、すごく思いました。だから、すごくいいときに練習に参加させていただけたなというのが、すごくよかったなと思うのと、本番は、練習で狭いところでやっていたのもあるのですが、本当に声が響かないな、みたいな。あの広い感じだったのもあるのですが、こんなにギャップがあるんだなという、素人としてそういう感想がありました。

本当に、ステージで歌わせていただくなんて、なかなか機会がないので本当にありがたかったです。ありがとうございました。

◎有井委員 式典方式でセッティングされていたので、反響板がなかったんです。

◎植田委員長 それは拝見して、思いました。

◎水本委員 貴重な機会をいただきましてありがとうございました。私も丹羽さんと一緒のときの、林先生がいらっしゃったときと、あと前日のリハーサルに参加させていただいたのですが、皆さんおっしゃるように、詞の理解というときに、林先生が、小金井市は夜、みんな働くときは都心とかあちらのほうに行かれていて、夕方戻ってくるまちなんだというのがすごく印象的で、だから詞の中にそういう、ちょっとほのぼのとした、家庭でゆっくりする、それが小金井市なんだというようなお話で、なるほどなど。そこがすごく自分の中ですとんと落ちた部分でした。貴重なお話をいただきと思います。

それから、井上先生の御指導が本当にすばらしくて、イメージを起こすための例えが本当にすばらしくて本当に、私は日ごろ、子供たちに合唱とか演奏とかをやっているのですが、すごい、結構感化されて、本当にすばらしいなど。そういう練習に参加できたこともいい機会でした。本当にすてきな歌で、私もしばらく歌っているような感じでしたが、果たして小学生がそのようになるのかなというのは、ちょっと私は。中学生はいけるかもしれない。小学生はちょっと、私の中では、ちょっと難しいかなと、正直。どのように子供たちに浸透していくかなというのは…。

◎植田委員長 越先生から。

◎越委員 いや、譜面がたくさんあり過ぎて、市歌だけかと思ったらたくさん。市歌はこれだけですよね。「光さす野辺」が市歌ですよね。何かたくさん。市歌って1つでしょう。たくさんあり過ぎるという。市歌だけでどうしてこんなに書いてあるのかと思って。

それで、よい歌かもしれないです。覚えるの、歌いにくいですね。正直言って。子供たちが簡単に楽しく口ずさめない。ちょっと僕見て、ああ、作曲の僕もあまりいじってはいけないから。それで、もっと簡単に歌えるような、リズムックというか、楽しく、小さい子供たちが簡単に口ずさめるような雰囲気。僕だって覚えるの大変。大変だったもん。難しい難しい。詞も難しいし。まあ、詞はあんまり現代の詞を使うのは、林先生はそうおっしゃっている、それはいいけれど、子供は理解するのが難しいなど。何か昔の女学生がコーラスで歌うような雰囲気で。それなりにはあるかもしれないけれど、僕は非常に、譜面が多過ぎて。どうしてこんなに書いたんですか。市歌だけだと思って僕は。それでもいろいろな編成があるしね。これ今、譜面をばらばらにして、またもとに戻すのが大変。ページを、何かあり過ぎるあり過ぎるで。何が何だかわからなくて、僕は本当に。

◎植田委員長 では井上先生。

◎井上委員 合唱連盟の、各団から1人ずつということでメンバーが集まりまして、実は去年おととしと演奏やったりしておりますので、大体のメンバーは把握してまいりますけれど、そこに参加していなかった方たちもいらっしゃいますので、合唱というのは意思の疎通がないと非常に難しいので、声だけ持ってくればよいというものではないんです。

4回の練習ですので、休まれる方もあるし、結果、当日やっぱり、2回休んで、ゲネプロ出ていらっしゃらなくて出席された方などは、そこだけ穴があくので、やっぱり配置、オーダーが非常に、私はオーダーミスをしたなどと思っています。ただ、今ここで聞く分にはね。

ですけれど、実際に聞いている方たちには、何か、そこまでは思っていらっしゃらなくても、薄くなっている、音が来るのが薄くなっているのが、穴があいたのが分かるなどと思って、振りながら、しまった、やっぱりちょっと私のオーダーのミスがあったなど思いながら、反省しながら振っていたんですけれど。

合唱というのはやっぱり意思の疎通があつてのもので、水本先生、私くだらないことを言っていました、それってみんなの気持ちを1つにするために、お笑いのようなことも言いながら、みんなが和気あいあいとできるというのは、それは一つ指揮者の役目でしてね。そういう意味では、大分終わりのほうにはまとまって、丹羽さんも水本先生も参加していただき、水本先生も高橋さんでもありますから、合唱団のメンバーは、市歌の選定の委員の人は本当に一生懸命作ろうと思っていたんだということが通じたように思います。

一番残念だったのは、音楽をやる者としては、あのような状態のところではやるべきではないんです。それも、「君が代」とかならいいのですが、市歌の初演ですからね。反響板のないようなところで歌うべきではないというのが私の、音楽家として、状況が状況ですから、うまく

いって上手だったからよかったのですが、でもやっぱりそれはきちっとけじめをつけて申し上げなければいけないこと。すごいほこりと、ダニだったんです、前日。合唱連盟は全員にマスクを配りました、急遽。

◎越委員 あその会場？

◎井上委員 そうです。もう、今年の夏、異常に暑かったですから、カーテン全部、ダニエルとほこり。緞帳全部ダニエルですからね。それが上がったり下りたりしておりますでしょう。その中で、こちらもそうですけれど、歌いますからね。吸うなというわけにいかないでしょう、息吸うなって。それで、みんなのどを傷めないように、マスクを配りました。

そのマスクの理由は、ただ守るのではなくて、マスクをもらったことによって体が緊張するんです。ですから、ダニが来たりほこりが来たのを、自分の免疫で守ろうとするんです。それが目的でマスクを配りました。あんな、ちょっとしたぐらいで、そういうことがカバーできるとは思いませんけれど、マスクを配ることによって、ここはほこりとダニがいるんだということ認識した上で、体を調整することによって、次の日ぐあいが悪くならないで済む、いい状態で行ける。自分の体は自分で守るということなので、そういうことも全て考えながらまとめて、何とかみんな、気持ちよく歌えて。まあ響かない。

ですけど、録音を聞いたら、打合せどおり、皆さん自分の持ち場をちゃんと守って歌ってくださったなというふうに感謝しています。拙い指揮者ですけど、初演という大役を無事に役を務められることができ、本当に皆さんに感謝しております。ありがとうございました。

◎植田委員長 本番のときは、林先生と信長先生はいらしていただいた。

◎企画政策課長 林先生はいらっしゃっていただきまして、信長先生は所用により、当日はいらっしゃれなかったのですが。

◎井上委員 深見先生もいらっしゃった。

◎企画政策課長 深見先生もいらっしゃいました。

◎植田委員長 林先生の御感想みたいなものはいただいていますか。

◎企画政策課長 御感想というところまで、ちゃんといただけていないのですが。

◎植田委員長 そうですか。どうもありがとうございました。

それでは、事務局より1件説明があるそうですので、お願いいたします。

◎企画政策課長 それでは、お配りしております資料1を御覧いただきたいと思います。音源の演奏者等についてでございます。

前回の本委員会でお話がありましたので、資料として市歌及び愛唱歌の演奏者の方の紹介をお配りさせていただいております。後ほど御確認いただければと思います。

以上です。

◎植田委員長 それでは、次第1の議題ですが、今後の活用等についてでございます。

事務局から説明をお願いいたします。

◎企画政策課長 それでは資料2を御覧いただきたいと思います。今後の活用等についてとい

う資料でございます。

前回に引き続きまして、今後市民の皆様幅広く親しんでいただくための活用方法について御議論いただければと考えております。

まず最初に、現時点で実施したこと、また進めていることについてでございます。小金井市歌及び小金井市民愛唱歌を10月1日に制定いたしました。また、10月7日の市制施行60周年の記念式典で合唱を御披露いただくとともに、10月7日付でホームページに楽譜等を掲載しまして、また音源についてもダウンロードできるような形にしております。

次に(4)の小金井なかよし市民まつりでの披露についてでございます。10月20日の土曜日、都立小金井公園で開催されました小金井なかよし市民まつりにおきまして、小金井市合唱連盟の皆様、小金井市歌、小金井市民愛唱歌をステージで披露していただきました。事前準備、また土曜日の朝早くからの御準備等、大変お手数をおかけいたしました。ありがとうございました。

当日は、歌詞を印刷しまして会場で配布いたしまして、会場にいらしたお子さん、市民の皆様への歌の指導もいただきました。天候にも恵まれまして、会場はたくさんの方にお集まりいただくことができました。大変よい機会となったと思っております。重ね重ね、御出演いただきました皆さん、ありがとうございました。

次にまいりまして、2の(1)でございます。市内の小中学校での活用ということにつきまして、前回の会議にて、教育委員会との相談という件がございました。10月7日の式典後、10月初旬に総合教育会議という、市長と教育委員の皆さんの会議におきまして、市内の児童・生徒にも、ぜひ市歌、愛唱歌を聞いていただき、さまざまな機会を通じて親しんでいただきたい旨、それから市内小学校・中学校における今後の活用について、御理解・御協力をいただきたい旨、正式をお願いをしたところでございます。引き続き、今後の進め方についても相談をしてみたいです。

次に2の(5)でございます。シルバー人材センターでの利用につきまして、具体案がありますので紹介をさせていただきます。

シルバー人材センターが特別養護老人ホームを回る際に、曲を流しまして入居者の方に聞いていただいたり、歌っていただいたりすることについて、現在計画し、進めていただいていると聞いております。

その他、前回会議での御意見について、こちらに掲載させていただいているところでございます。

また、今日もこの場で新しいアイデアなどがございましたら、皆様から御意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

◎植田委員長 ありがとうございました。

今後の活用ということについて、皆様方から何か新たな御提案なりお考えがございませんで

しょうか。

◎伊藤委員 話がちょっと前後してしまうのですが、先ほど植田先生のほうからお話がありました、作詞者の林先生の感想ということなのですが、当日、歌の前に、先生がこの歌のことについて皆さんの前で話をなさっていたんです。できたらそういった先生のお言葉みたいなものを、楽譜や音源をダウンロードするときに、作詞者の言葉みたいなものも一緒に載せておいていただければいいのかなと。気持ちが理解されるのではないかなと思ひまして。

先生の中でそういうふうに、感想ではないのですが、御自身のお気持ちは皆さんの前で話しになっておりましたので、とりあえず御報告を。

◎植田委員長 ありがとうございます。お聞きの方に向けてということですね。

◎伊藤委員 そうです、はい。

◎植田委員長 そうですか。

◎有井委員 私たち、待機していたから聞いていなかったんです。

◎植田委員長 そうですよ。出演者ってみんなそうですよ。

◎伊藤委員 舞台の中にいたものですから、あまり細かいことは聞いていないのですが。

◎越委員 済みません、またいろいろ戻るかもしれませんが、この作品の作曲と作詞の著作権の問題というのはどうなっているのかというところを。買い取ったのか。

◎企画政策課長 著作権につきましては、作詞の方、作曲の方が持っている権利ということになります。私たちはそれを使わせていただくということになります。

それで、ホームページにも楽譜、それから音源について掲載をさせていただいておりますので、それはどなたでも御自由にダウンロードしていただいたりできるということになります。ただし、一般の場合は、それを有料の演奏会等を開いてということになりますと、そこは著作権料……。

◎井上委員 何かそういう、表みたいなものをいただけませんか。

◎越委員 それをはっきりしておきたいんですよ。一番大事なことで。うかつに有料コンサートをやったときに、対応できないんですよ。市が買い取ったなら話は別だけれど。

◎企画政策課長 これはホームページ上にも掲載しているのですが、著作権法だけの場合は、有料のコンサートとかで使用した場合にお支払いが生じるということがありますが、今回はそれに加えて、市民と小金井市内に所在する合唱団、吹奏楽団及び交響楽団等の団体の方たちが御使用される場合には、これは有料のコンサート等であっても無償でお使いいただけると。そこははっきりと、そういった形で取組をしております。

◎井上委員 ホームページに載ってます？

◎企画政策課長 はい。ホームページのほうにも掲載しております。

◎越委員 今また楽譜のことで、ちょっといいですか。この吹奏楽の譜面というのはどなたが作ったのか。吹奏楽は歌は歌わないけれど、作曲は信長さんで、オーケストレーションしたのはどなたか。

◎企画政策課長 作曲に関しては……。

◎越委員 いや、オーケストレーション。

◎企画政策課長 はい。吹奏楽譜につきましても信長先生にお作りいただいております。

◎植田委員長 よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。アイデアなど。

◎井上委員 ちょっと戻って、1のほうで、とても卑しい話なのですが、でも言わないとみんなの気持ちがありますし。

市制7日、歌いました。打ち上げで、ある一市民が、紙袋の大きなのを持ってきて、抽選で当たったわけでもなし、イトーヨーカ堂に来たついでに寄ったんだけど、名前を書いたらそれをくれたというものの中に、私たちと同じものが入っていたんです。歌っている人たちは何にもなかったんです。何もいただかなかったんです、その日に。別にいただくと思ってきているわけではないけれど、その、ふらっと来た方がそういうものをいただいて、私たち、お祝いに来て歌ったのに何もないという声が出ますので、有井さんを代表して、合唱団が主ですから、市のほうに申し出ていただきました。

別に有井さんがファイルが欲しいわけじゃない。有井さんは山のようにあるんですけど。やっぱり気持ちというのはすごく大事で、お祝いでみんな、市制の60周年に、歌をもって参加しているので。そのところがとても、心遣いがない。

◎植田委員長 それは記念品のようなものですか。

◎井上委員 何でもいいですよ、記念品でも。

◎植田委員長 いやいや、その、お聞きの方がいただいたものというのは記念品ということですね。

◎井上委員 はい、記念品です。小金井の何とかと何とかと、小冊子が何とかって入っていて、私たちに渡すのに。クッキーが入っていて、ファイルが入っていてというものがセットになっていました。

それで、別に全部それをいただかなくてもいいんですけど、例えばトイレに置いておくような、何かいろいろなことが書いてある小冊子がありましたよね。いい言葉が書いてある。トイレなんてごめんなさいね、便利だなと思って。そういうものだけでもよかったんです。別に金目のものがとか、そういうことじゃないんです。何か記念に、市から何か、御苦労さまという気持ちが、他市では必ずあるので。少し心遣いというか、実行委員のほうで、あなたたちではなく実行委員という方がいらっしゃるでしょうから、そういう方たちの。

例えば水本先生、お子さんたちには何か来ましたか。何も来なかった？

◎水本委員 いや、ありました。

◎井上委員 その日に？

◎水本委員 いえ。

◎井上委員 後からね。

◎水本委員 はい。

◎井上委員 それ、有井さんが言ったからです。後づけなんです。で、私たちはいいけれど、子供たちは特に、ファイルが要るんじゃないのと。試験の。有井さんがすごくそういうことを——有井さんだけじゃないですよ、合唱連盟のみんながそういう話をして、おかしいんじゃないかと。ゴレンジャーだか何レンジャーだかわからないけど、あの子たちもいるし、大人はいいけど子供はね。そういう心遣いがまずないということ。

◎越委員 クッキー入った、あれ一袋でいいんだよ。

◎井上委員 そうそう。そうです、そうです。

◎有井委員 子供に行きました。

◎越委員 それと、あと今おっしゃった、市の沿革史だね、あれ。小冊子。あれ、60周年記念、あれ、欲しい人は役所に来ればと。市が60周年記念だから、もう各家庭に1冊配るべきですよ。本当に、あれはそのぐらいのことをやらなきゃだめですよ、市が。

◎井上委員 それと、なかよしまつりに合唱団が行きましたけれど、ボールペン1本、ファイル1つもなく。あれ、実行委員会の何とかさんという方ですかね。でも、あの方は関係ないんですよ。市のほうからの、市民まつりに我々に出てほしいという依頼ですよ。実行委員から出て下さいというお話ではないですよ。ということは、梅原さん、責任者ですよ。

我々は別に物が欲しいわけじゃないです。でも、心遣いがなさ過ぎる。みんながああやって心を寄せて、ブラウスを着て。あれが雨だったらどうしようというぐらい、透明の傘を用意してくださいという指令まで、ちゃんと連絡まで回って、寒かったらコートを着ようというぐらいまでの心遣いをみんなして集まっている割には、「ありがとうございました」で終わりはないでしょう、というふうに、合唱団を代表して私が言わせていただきます。ちょっと心遣いが。幾ら予算がないとはいえ、ちょっと足りないような気がします。

今後何かあったときにくれなんていうことじゃないですよ。この、市の、市制に関してのくくりとして、やっぱり予算がないとかっていうお話ではあるけれど、何とか工夫できたんじゃないですかという気持ちはありますので、一応お伝えしておきます。

植田先生、そういうことでございました。

◎植田委員長 はい、どうも。

◎企画政策課長 一言よろしいですか。いろいろ御指摘いただきまして、私のほうで本当に至らない点が多々あったと思います。申し訳ございませんでした。

◎植田委員長 ほかにはいかがですか。

この間、どうするかということは話が出て、ここに何件か出ているのですが。

◎有井委員 ここに入っていないのですが、ごみの収集車。どうでしょう。

◎植田委員長 ごみの、メロディー。

◎有井委員 だめですかね。(笑)

◎井上委員 今ここは何が鳴っているんですか。小金井市は。

◎有井委員 「夕焼け小焼け」？ 何だっけ。

◎井上委員 よく「カッコーワルツ」があるよね。

◎有井委員 「夕焼け小焼け」だと思う。

◎高橋委員 そうですね。

◎井上委員 そう？ 朝に？ 朝に「夕焼け小焼け」なの？

◎有井委員 もう、あれが来たからって、ごみ、わーって。朝の8時半に。

◎井上委員 「夕焼け小焼け」。

◎植田委員長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。仮に、そんなような新たな意見が出た、アイデアが出たとして、どこにお伝えすればいいわけですか。

◎企画政策課長 もし、この場でなくて、後で思いつかれたようなことがありましたら、我々に直接お伝えいただければ大変ありがたいです。

◎植田委員長 ということだそうです。ほかにはいかがでしょうか。

◎有井委員 この間のなかよし市民まつりに参加して、ちょっと思ったのですが、来年以降、商工会とかにも協力いただいて、市歌コンクール。いろいろ、家族で歌ってもいいし、いろいろな団体、友達で歌ってもいいし。それはうまさを競うのではなくて、振りとかいろいろなものをトータルでどういうふうに表現するかというのができたら、ちょっと楽しいんじゃないかなと。全部歌うと大変ですから、くじ引きでもしてもらって、4番まで、出た番号のところを歌うみたいな。コスチューム込みで。

◎植田委員長 おもしろいアイデアかもしれないですね。

ほかにはいかがでしょうか。

◎高橋委員 例えばホームページで活用できるのであれば、こういうところで演奏したよとか、仲間内で歌ったよというのが、市のほうに例えばデータを送ればアップロードしていただける。そういうふうだとみんな、こんな人たちが歌っているねとか。そういうのもおもしろいかなとも思います。

◎有井委員 月変わりとかね。

◎植田委員長 いわゆる市民の参加型というか、のほうから。

◎伊藤委員 駅へのお願いというのは難しいんですか。JRの。

◎植田委員長 なかなか難しいですか。

◎企画政策課長 そうですね。恐らく一定の費用とか、そういったものとかもあると思いますし、簡単ではないのかもしれませんが、そういった特別なメロディーを流している駅もありますので、可能性としては、ないことはないのだと思います。

◎植田委員長 幾つか出て来ましたね。

◎井上委員 一番大事なことは、越さんがおっしゃったように、非常に難しいんですよ、子供が歌うには。それをどう浸透させていって、みんなに広がっていくかということを中心に、もちろんごみもいいですし夕方もいいですけど、一番大事なことは、市民みんなが歌えるよう

になるのを、先を持って計画するということが大事かなと思っています。

やはり、市歌コンクールではないけれど、どなたでもどうぞということでやると、みんなが練習しますからね。そうすると、そういうところで広がっていく。もちろん小学校・中学校だけれど、小学生に「空よ」は、もう3行で目いっぱいですよ。まあ1番ぐらい。歌唱指導しても、途中、私、半分は投げて、最初の2行だけとっていましたのでね。なかなか、歌ってしまえばすごくいい曲なのですが、取っかかりがやっぱり難しいですね。

だからそういう意味で、実際に演奏したり、自分たちがよく練習したりというのが広がっていかないと難しいのではないかと思います。コンクールもいいですし、ホームページに載せるということは、載せる人たちは練習するわけですから、そこで広まりますでしょう。

ちょっと技術が要ると思うんです、広めるということに関しては。何か工夫をしないと、このまま立ち消えになってしまうかもしれない。越さんがおっしゃるように、プロの方でさえ難しいなと思われて、一緒に歌っていたら多分歌ってくださるだろうけれど、譜を見たらびっくりしちゃうぐらい難しいというふうに感じられたら。

最初に、丹羽さん、いかがでしたか、あの楽譜を見て。練習にいらしたでしょう。隣で歌ってくれるからついていけるというような感じですよ。

◎丹羽委員 そうですね。

◎井上委員 そうですね。だから、そういう意味で、ちょっと、メインに置くのが夕方の何とかというのもそうですし、市役所でもそうですけれど、やはり公民館の市民講座もしないと伝わらないでしょうし、市民活用ももちろんみんなやりますけれど、市歌のコンクール、ホームページに載せる。じかにやっていかないと広がっていかないのではないかと思いますので、もちろん、JRもしていただけたらいいですけど、していただいても、今の段階だったら「何これ」となりますよね。ある程度歌えれば、「あ、市歌だ」とわかりますけれど。そのあたりを少し工夫しながら、御相談しながらいくのがいいかなと思います。

◎越委員 これは簡単に歌えるものじゃない。プロだから難しさがわかる。プロだから、プロはやるけれど、プロの目から見て、子供たちとか一般の市民の人には、ちょっと難しい。浸透させるためにはかなり時間がかかる。長生きさせるためにはね。こういう作品はね。慌てないことだね。市歌とかそういうのは、みんなが簡単に口ずさめるような感じで。自然になってくればいいんだけど、いかんせん、これはやっぱり難しいですよ。小学生の1年、2年ぐらいの子供たちには、ちょっと難しいかもしれない。

◎井上委員 だから「夢見る町」なんかとんでもなくて、市歌のほうが浸透するのに。「夢見る町」、すごくいい曲なんですけど、やっぱりそれは合唱団とか特別な方たちが取り組むにはいいですが、とりあえず市歌を広めないで。歌ったらすごくいい歌なんですよ、「夢見る町」も。ですけど、まずは市歌の選定委員会ですから、市歌のことにに関して、真剣にみんな考えていかないといけないかなと。

◎越委員 僕は、予算がないなんて市はおっしゃっているけれど、市歌だけならこんなに

譜面が、いろいろな作品ができると思わなかった。これは市歌のために。合唱のためじゃないし、これは。合唱の作品じゃないし。

◎井上委員 だから今回も斉唱で歌っていますからね、市歌は。みんなで歌えるようにという事で。市歌は斉唱で。

◎越委員 でも、合唱のためにこれだけ合唱譜を作ったというのは、お金がかかったんでしょう。

◎井上委員 決まっている中で工夫されてなされたんだそうです。だから、「夢見る町」もプレゼント。

◎越委員 どこからのプレゼント？

◎井上委員 林先生の。自分の持ち分を、小金井市の皆さんにということで、好意でやってくださったそうです。

◎越委員 それ、知らなかったのは僕だけ？

◎有井委員 いえ、いらしてましたよ、越さん。茶話会のときにちゃんと、先生とお話しされましたよ。お忘れになっちゃったのかしら。

◎井上委員 いや、引っかかっておられるのか。こんなにたくさんの楽譜というのはやっぱり。

◎越委員 本当に。普通はこれだけなのに。これは吹奏楽の譜面も見えて、オーケストラって、僕もアマチュアオーケストラを教えていますから、まちのオーケストラでと。だから、予算がないから、もしも市から何かの行事のときにオーケストラでやってくれと言われたら、譜面がないからできませんと。

◎有井委員 え、越さん。プロで、お書きにならない。

◎越委員 いやいや、そのためには僕はやっぱり専門家を頼むから、そのときの費用は市で出していただけるかどうか。僕はオーケストレーションをしていただく人、いろいろ知っていますから。プロの指揮者とか。プロのオーケストラ書く人。そういう人に頼みたいと。もしも。

◎井上委員 でも、植田先生。このオーケストラの話は、ここで、書いていただくというお話にはならなかったんですね。

◎植田委員長 あのときはならなかった。

◎井上委員 そうですね。

◎越委員 そのほうが助かります、やらなくて済むから。

◎植田委員長 それと、音楽として、メロディーとして、子供たちになれ親しんでもらうには、各学校にある吹奏楽で演奏するのが手っ取り早い、いいのではないかと。教育の場とか、学校というシステムに即しているのではないかということは話が出ましたよね。

でも、本当にそれが後々、仮にですが、オーケストラにまで広がるようなことがあれば、それは本当に素晴らしいことだと思いますけれど。

◎越委員 吹奏楽は今、中高でどこにでもある。これからはオーケストラですから、かなり。公立学校でも生きていますから。

◎植田委員長 ええ。吹奏楽のほうがずっと純粹になると思います、いろいろな意味で。

それこそ、今後のことではありますよね。今おっしゃっているのは。

◎越委員 きっと必要になってくると思いますね。

◎植田委員長 ええ、本当に、そうなればすばらしいなど、個人的には思いますけれど。

◎越委員 緑中かな、あそこでは弦楽合奏が結構しっかりしていますから。

◎井上委員 水本先生ですか。

◎越委員 すばらしいですよ、あそこは。この間も60周年のときに聞きましたが、本当にすばらしい。あの子たちがあれだけやるということは。絶賛しますよ。

◎水本委員 ありがとうございます。

◎植田委員長 いかがでしょう、大体出尽くしましたか。あるいは先ほどのお話では、何かアイデアが生まれたら、直接届けもできるということですので、その点どうぞよろしく願いしたいと思います。

それから、前回も含めてですが、今日も幾つか挙がった提案に対しては、事務局でよくまとめていただいて、今後の発展につなげていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

これで今日の話し合い、お集まりいただいた内容というのは終わりになります。今日をもって、この制定委員会が終わりということになりますので、本当に、まずはありがとうございます。

せっかくですから、一番最初に皆さんが集まったときに一言ずついただいたと思うのですが、実際にこれを何回か繰り返してきたご感想など、簡単に結構ですので、もしもお話しいただけたらと思うのですが。

では今度は逆順で、丹羽さんから。

◎丹羽委員 やはり、歌ができる過程ってこういうのなんだなという。本当に素人の素人なので、この、市の歌を作るという大きなプロジェクトにかかわらせていただいたというのが、本当に光栄だなと思いますし、作曲の方だとか作詞の方だとか、すごく思いを込めて曲を作っていらして、それを歌う方々もそこに気持ちを乗せて歌うという、本当に、井上先生も本当におもしろい、コーラスってこういう感じで皆さん歌われたりするんだなというのも本当に勉強になりましたし、本当にいい経験をさせていただきました。皆さんありがとうございました。

◎植田委員長 では高橋さん。

◎高橋委員 私も小金井に来てもう十何年で、ほぼ20年弱になるのですが、やはりこのまちは非常に住みよくて、もうそれが歌の中にすごく込められていて、最初にも申し上げたように、最初は暗譜するために歌詞を何回も読まなきゃいけないなど。言葉が出てこないという、そういうところの段階から、やっぱりこの、何回も読むうちに、あ、この言葉だと。この部分にはこの言葉が非常に合っているなというのがだんだんわかってきて、情景も思い浮かび、昔の小金井、今の小金井、それで多分今後の小金井はどうなるんだろう、みたいなのが詞にしみ込ん

でいるというか、それが歌う側、聞く側にも、世界が広がっていけるような歌に仕上がって、非常によかったなと思いますし、今後、これはじわじわと、長い年月をかけて広まっていけばいいなと思います。ありがとうございます。

◎有井委員 ありがとうございます。まずは企画政策の皆さん、お世話になりました。ありがとうございました。特に齋藤さん、いろいろとダイレクトにものを申してきたので、大変失礼いたしました。ありがとうございます。

市歌ができるって、夢のような、自分たちの宝物ができるという気持ちだけじゃない、皆さん目指すところは一緒だったのですが、それぞれの立場とか考え方とか、いろいろな違いがありますから、それをうまくすり合わせて、何となく落としどころを見つけて、林先生というすばらしい作詞をしてくださる先生がいらっしゃって、そこに協力してくださった信長先生、深見先生という先生がいて、もう、できたんです、市歌が。できたのだから、これを今度は潰すのではなくて、みんなで育てていく。そのために何をしたらいいのかなというのを、すごく考えています。

今日、CDを聞いてきたのですが、学芸大の見本のCDを聞いたのですが、あの詞って、祈り、小金井がこうあってほしいなど。50年後、100年後にも歌えるような歌を残したいから、安易な市歌を作りたくない、林先生はおっしゃっていたんです。それを思い出して、例えば野川がふたをされて暗渠になっちゃったら、ここに川がありましたと、100年後、「ハケ？ ああ、昔そんなものがありました」となったら悲しいなど。この風景がずっと残ってほしいという、その祈りのようなものが歌にあるし、CDのジャケットを、林先生が写真を撮られたと伺って、やっぱりこれが小金井の風景なんだなと思って、これを大切にしていきたい、この気持ちをずっと歌いつないでいく、そのために何をしなくちゃいけないかなというのを、これから考えて、ぼちぼちやっていきたいと思います。皆さんありがとうございました。

◎植田委員長 では逆に行って、井上先生。

◎井上委員 合唱連盟を背負っておりますので、言いにくいことも随分言わせていただいて、市の方には大変御迷惑をおかけしたかと思いますが、本当に無事にできて、みんなで和やかに歌えて、よかったなと思っています。それで、これからもどうぞ、転属がない限りよろしくお願いいたします。

丹羽さんにも、全くこういうことがない限りにはお出あいできなかつたでしょうし、植田先生、私の友人のマエジマ先生と同級生でいらっしゃって、とても御縁を感じております。こんな偉い先生。皆さん、こんなにここにこしていらっしゃるけれど、ものすごくお偉い方なんですよ。

その植田先生にも御目文字叶い、水本先生にも、存じ上げてはおりましたけれど、「あらこんにちは」なんていうことがお話しできるようになり、越さんは越さんで、前からお顔は存じ上げていましたけれど、なかなか筋の通った考えを持っていらっしゃることも、ここに来て初めてわかりました。伊藤先生はもともとの私の大学の、受験のときからの知り合いで、本当に

青春を一緒に生きてきて、今も一緒に生きてきておりますので、こういう御縁があったことが、もう本当に私の中では宝物です。市歌ができて、また人ともつながって、とてもいい人生だと、死ぬときに思えるんじゃないかと今思っております。どうもありがとうございました。

◎植田委員長 では越先生、いかがでしょう。

◎越委員 これは録音されているんですか。

◎植田委員長 そうですね、一応会議録として。

◎越委員 まあ、文面で残さないですよ。

◎植田委員長 まあ、そこら辺は。（笑）

◎越委員 本当に、市役所の方もありがとうございます。いつもお骨折りいただいて、また先生方も。やっとこの詞も、やはりはやりすたりのないというか、言葉も大和言葉みたいで、永久に残る、いつの時代になってもやっぱりいいと思う。これも長い目で親しんでいくでしょうと思うのだけれど、僕はこの会議をやっていて、僕もプロの音楽で、一応業界でも古いほうだし、作曲会から指揮者の会からいろいろな方と第一線ですっともう半世紀以上やってきたもので、いろいろなことに通じているつもりでございましたが、この会議で一番山場になるところは、僕は作曲だと思っていたんですよ、私の考えで。作曲のときこそ一番いろいろな意見が出てきて、どうするか、誰がいいかと、僕は思っていたもので、相当な、いろいろ作曲家が頭にあっただし、これは大変なことだ、これが一番難しい、どうするか、また市民の言葉の中で特定の人にすべきではないとか、どうするかと。公募するかとか、いろいろな人に頼むと採用しなきゃならないし。うちの娘もやっているし、「私だって応募するよ」なんて言っていたんですよ。うちの娘も、武満さんをして天才と言わしめたんです、うちの娘も。私だってやりたかった。そんなところに金を使うのかなんて、娘がガーガーガー言っていたけれど。

それで結局、いい作品ができたからいいけれど。作詞もね。僕も本当に小金井では古いんですよ。父が都心で、関東大震災でやられて、こっちへ来てすぐ生まれたんです。本当に、僕はここで生まれているけれど、なかなか土地になじめなくて、今は小金井っ子になって、一番古い音楽家で、自称。僕がいたときは、御存知か何か知らないけれど、小金井にコウノイチロウさんという絵描きさんがいるんです、有名な。中村研一以上に古いかもしれない。その人の御兄弟がピオラをお弾きになっていて、アメリカへ留学してそれっきりになってしまった。その次にいたのが僕なので、僕はもうあと2か月半で86になるんだけれど、まだ現場で何とかやっていますが。ですから非常に小金井を愛しております。市歌もできればと思って。いいものを作りたい一心だったです。

それで、ちらっと、ちょっと言わせてください。作曲家について言ったら、作詞家と一番釣り合っている人が書くべきだと、そういう考えを僕はちょっとあれだと。例えば、有名な作品がありますよね。メーテルリンクの書いた「ペレアスとメリザンド」ってありますね。あれのオペラを書いたのはドビュッシーが書いたし、作詞をフォーレが書いているし、別に作者と仲がよかったわけではないでしょう。それでもあれだけのものを書いているわけですよ。だか

ら、作曲家が作詞家と通じ合っていなければいいものがない、それはかえって悪いものですよ、そういう考えは。

◎井上委員 あれって、作曲者が書きたい作品を書いたんですよね。依頼されているんじゃないんですよね。

◎植田委員長 あれはまた難しい面があって。作曲家が例えば長年その作品を温めていて、例えばメーテルリンクの脚本を読んで、そこから何年かかけて。初めて成立するような話でもありますよね、それは。

◎越委員 リヒャルト・シュトラウスが「サロメ」のオペラを書きたいと。でも「サロメ」を書いたのはオスカー・ワイルド。シュトラウスはドイツ語ですからね。何とかそれをドイツ語にしたいとあって、相当時間をかけて、やっとドイツ語の作らせて、そしてあのすばらしい「サロメ」のオペラを書いたりしているんです。

だから、その詞を見てどうしても書きたいと。下手に作詞家と通じ合うようなただそれは、その作品に対してインスピレーションが湧きますからね。僕はいつもそういう考えを持っていますから。ごめんなさい、すばらしい作品でした。

◎植田委員長 はい。水本さん、いかがですか。

◎水本委員 お世話になりました、ありがとうございました。市歌を作ることに参加できて、とてもよかったなと思っています。当日の60周年式典のときには、緑中の弦楽部を選んでいただいて、あそこで演奏することができたのですが、あその会場には、その後すぐ帰らなくちゃいけないのかなと思って市の方に聞いたら、その後もいいよと言っただけだったので、その後の、工学院の方たちが作ったビデオとかも子供たちが見て、小金井市に暮らしているということの、知ってはいるけれど、そのよさというか、何が残していくとか、ほかの人たちに自慢できることなのかということがわかったんじゃないかなと思います。

先ほどのお話を伺って、お菓子がそういうことだという。子供たちは本当に喜んでいて、自分たちの演奏でごほうびがもらえるということが、本当に喜んでいました。そこに参加できたことはすごくうれしく思いました。

音楽の先生たちの会があったときに、このお話をしたのですが、まず、林望さんという方は、みんないろいろなところから来ていることもあり、あまり知名度としては、音楽科の先生たちの中ではなかったのですが、作曲が信長さんだということはみんなすごく驚いて、「信長さんに依頼ができたんだ」という。それはすごい、という反応でした。ただ、ちょっと難しいんじゃないのという話も、そのときにも出たのですが、どうも吹奏楽の楽譜もできるらしいよという話をしたら、それはちょっと厳しいなという話で。練習が。そういう余裕があまりないというか、それはどこで演奏するのだろうかという話になったときに、実際の学校の中で、市歌を演奏する機会というのが、今現在浮かばないと。これが正直な音楽科のところ、先ほども、どうしたら活用ができるかという話がありましたが、どこかで強制的に歌うということの何かの場を持たないと、なかなか授業の中や部活動の中でも演奏することは、今の段階では難しいか

など思っています。

だから先ほどの、コンクールがあつて参加するとか、いいなと思いましたが、何かの機会で、何々中学校は演奏してくださいみたいな機会がないと、そこに手をつけることは、せっかく楽譜ができて難しいかなというふうに、率直なところ、思っています。

私自身は、2曲とも非常にすばらしいと思ったので、そのことは、すばらしい曲ができ上がったよと宣伝する気持ちは十分にあるのですが、じゃあそれをどこの場所で披露するかといったら、やはり難しいのかなという感じがしました。例えばうちには合唱部があつて、合唱部の人に、何かの時に演奏してみても、みたいなことは、もちろん話是可以すると思いますけれど。何か、広まっていくことのきっかけづくりには、私はなりたいなと思いますが、ちょっと、アイデアとしては今現在浮かばないのですが、そこがちょっと大事なかなと思います。せっかくこんなすてきな歌を作って下さってという感じがしました。

◎井上委員 水本先生、ここで有志の方と組んで、市といろいろ考えて、そういうことを進めていくという、たった1人で学校の中に残ってそういう活動をするというのは非常に負担になるんじゃないですか。誰かと相談するので、「こんなのいいね」と言って周りが作ってくれて、そこに参加するというほうが楽なんじゃないですか。

◎水本委員 そういう、相談する相手というのはいるのですが、実際にどこでとなったときに。

◎井上委員 まあ、有志の方たちに、いいよ、そういう相談しようねと。それをあちらの企画のほうに話として持って上がる。ここで話して、はい終わり、ぱーっと、散ってしまいますでしょう。アイデアとか。だから、それでいいのかどうかですよ。

◎越委員 我々選定委員が、それなりの責任というか、義務というか。別に幾つも作品があつて、どれを採用するかじゃなくて、たった1つしかない歌を、それを認めたことになるんだから。やっぱりこれを広めていくしかないですよ。1人じゃなくて、みんなでやっぱり。責任があると思うんですよ。

◎井上委員 植田先生、いつまでも引っ張りません。

◎植田委員長 伊藤先生、いかがですか。

◎伊藤委員 まず、選定委員会のほうに参加させていただきましてありがとうございます。私は大学のほうから、最初にもお話ししましたが、大学のほうから話がありましたときに、西東京市にある学校が何で小金井市の。しかも小金井市民でない僕に、何で話があったんだろうというふうなことがあつたのですが、大学のほうに聞きましたら、小金井市といろいろな連携や何かということで、学生もこちらのほうにお世話になっていたりというようなことがあつて、いろいろな活動や何かを通しておつき合いがあるということを知りまして、こちらに参加させていただく、大学からも出してほしいと言われていたからということだったので、さっき有井さんの話の中にもありましたように、やっぱり市民の皆さんの中には音楽をやっている立場の人、そうでない人たち、いろいろな立場の方がいる。その中で、やっぱり第三者的な立場で参加させていただくことも大事なのかなと思って、ぜひ、じゃあお願いしますということで、

こちらへ伺いました。

まず、学校のほうから話したときに、井上むつみさんって御存知ですかという話がありました。「えっ」と言っていたのですが、この会議を何回か開いているうちに、中にはいろいろな意見があって、先ほども話がありましたように、落としどころを見つけるという話もありましたが、やはりいいものを作っていくというためには、いろいろな意見が出る。その意見の中で一番いいかどうかということになるとなかなか難しいかと思うのですが、一番いい方法をとっていくということで話し合いが毎回毎回、とても意義のあるものだったのかなと思います。

それで、できた作品も、先日発表したようにとてもいいものができると思いますし、本当に、こういったものに参加させていただいてよかったなと思っております。

それから、やはり会議ですから、いろいろな意見の方がいて、いろいろな意見を言うのが会議で、それをうまくまとめていくということは大変だと思うのですが、本当に、植田先生の、何となく穏やかな、優しそうで、というようなところで、話がうまく進んでいって、時間も延びないで、回数も延びないで、うまくまとまったのかなと思って、その中で少しでもお役に立てればと思っておりましたので、ほんのわずかですが、お役に立ったかどうかはわかりませんが、最後に歌まで歌わせていただくということで、本当に楽しい思い出になったかと思えます。本当に先生、ありがとうございます。皆さんありがとうございます。

◎越委員 すみません、さっき、僕、責任、義務で、義務はないんだ。採用した責任はあるから。ということで、義務はないかもしれません。ごめんなさい。

◎植田委員長 では最後に私から皆さんに、まず本当にお礼を申し上げたいと思います。もう、こんな役をできるのかということ、それと、私自身が、最初に申し上げたかもしれないけれど、小金井市とは縁がないのですが、その昔、花小金井に住んでいたという、小金井公園の北側ですけれど、というのがもう40年ぐらい前ですけれど、「あ、小金井ね」と思って、このお話をいただきました。そうしたところが、かつての同僚、そんなに長い期間ではないですが、林望先生は芸大のほうにいらしていただいたことがあって、そのときに私は親しく何回かお話をさせていただいたりもしたり、私のクラスの学生は林先生にすごくお世話になったりして、割と交流があったりしたので、そういう縁というのがこういうところでまた、へえ、と思いながら、このお役をさせていただきました。

それと、先ほどの話ではないですが、信長先生に書いていただけるというのはめったにないことなのではないかなと。本当に、そういうふうに流れていったのはすばらしいことだなと思っています。

でも何よりも、この場では先生方、皆さんの御意見をたくさん聞かせていただいて、私はどういうふうにさばけたのか、全然自分では実感がないのですが、皆さんのおかげで、それから伊藤先生には本当にいろいろなことで助けていただいて、ありがとうございます。

それから市の方々、本当にありがとうございます。何しろ代変わりしているもので、最初の運営のところと違ったりして、引き継がれた方も、引継ぎを受けた方も、それぞれ思いがある、

大変だったのではないかと思います、そういう中、よく助けていただいて本当にありがとうございました。

あとは、この歌が、それこそいろいろな形をとって、高まっていかないことには、せつかくのみんなの力が高まったものが、本当に廃れていかない、枯れていかないようにする、この努力って相当に大変なのではないかと私は思いますが、私は小金井市の外からそれをずっと注意深く見続けていきたいと思えます。本当に長い時間、ありがとうございました。心から御礼を申し上げます。

— 了 —